

「尾崎小学校の尾崎三尺棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

阿久根市立尾崎小学校

2 学年

全学年（3・4・6年）児童（計6人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

- ・9月から週1回 総合的な学習の時間で1時間 学校体育館
- ・9月毎週金曜夜1時間計4回 尾崎棒踊り保存会指導による集中練習

(2) 発表の日時・場所

尾崎小学校運動会（校庭） ※校区合同運動会はコロナ禍で実施せず

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称 尾崎三尺棒踊り（おさきさんじゃくぼうおどり）

(2) 由来

数百年前から踊り継がれているらしいが、詳しい資料が残っていない。地域の高齢者の会、保存会、文化協会の方に伺ったが詳しいことは分からない。弓木野集落と尾崎集落のそれぞれに棒踊りがあったようだが、現在行っている踊りは尾崎集落の三尺棒踊りのようである。

(3) 構成等

6人一組で踊る。3列縦隊が基本である。頭には白いはちまきを締め、かすりの着物を着て白いたすきをかける。足は黒の靴下の上に、わらじを履く。腰には堅木の三尺棒を差す。戦いの踊りで、足の裏を見せないように踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

昭和40年代人口の減少とともに、伝承活動も途絶えがちであったが、昭和54年尾崎小体育館落成記念式典にあたり、尾崎三尺棒踊り保存会の支援を受け、5・6年生児童で「郷土芸能『尾崎三尺棒踊り』児童保存会」が結成され14年ぶりに尾崎三尺棒踊りが復活し、今に至る。平成20年からは、総合的な学習の時間に毎月1回全校で練習を行い、校区との合同運動会で披露してきた。保存会は踊りの指導だけでなく、保護者への衣装の着付け指導も行っている。

6 文化財伝承・活用の取組で工夫した点

- (1) 家庭教育学級の活動として、尾崎棒踊り保存会による着付け教室を実施し、保護者も参加するようにしている。児童数減少と保存会メンバーの高齢化に伴い、踊り手不足の課題を、卒業生や保護者、保存会員にも踊りに参加していただくことにより、6人2組をつくった。
- (2) 着物は地域の方の手縫いで、着用後はクリーニングに出して大切に保管している。あくねっこ事業が終了して、クリーニング代の確保が課題であったが、学校運営協議会に相談して、保存会の活動費から支援していただいた。

7 取組の様子



【練習状況： 尾崎三尺棒踊り保存会による指導】



【発表の場： 令和3年度 第74回尾崎小学校運動会】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【6年生児童生徒】

保存会の方と一緒に踊って、気持ちが引き締まった。小学生は6人しかいないけど、卒業生や保存会の方々のおかげで、みんなで踊れてよかった。

【教職員】

踊りが難しく自身が覚えるのが指導ができないため、地域の協力が不可欠である。今後さらに児童数減少と指導者不足で継続は難しいかもしれない。

【保存会から】

児童が踊りを忘れていたので、上学年が下学年をリードして、積極的に覚えるようにした方がよい。保存会も久しぶりに本番で踊った。

【保護者から】

人数が減って心配したが、保存会の方々のおかげでなんとか実施できた。学校や地域と共に伝統を守っていく必要がある。

【地域の方から】

本年度はコロナウイルス感染防止で運動会に参加できなくて残念だった。見学希望者は参加可だったので、毎年楽しみな棒踊りを見ることができた。